

急ピッチで晩秋へ

10月下旬からの二上山

11月に入ると、急に冷え込み、朝晩単車で出かけるのには冬用ジャンパーを着用しています。

山歩きを再開しました

私事で恐縮ですが、8月から始まった前立腺がんへの放射線照射治療が10月11日に一旦終了。まだ排泄のリズムが元に戻らず、下腹部には横一文字の黒い筋が現れるなど体調快復とは言い難い状況ですが、山歩きを再開しました。

10月23日には山歩きクラブの例会で台高山脈(大台ヶ原と高見山とを結ぶ)の明神平に登り、早朝登山で二上山各所を歩き回っています。



↑アキチョウジ(二上山・10月)

生々しい台風の爪痕

今秋、2度にわたって関西を襲った台風は二上山でもあちこちに爪痕を残しています。人工林ではスギなどが折り重なって倒れています。

大阪側からの登山路のいくつかは険しい岩尾根を辿っていますが、そこに自生していた広葉樹の樹々が谷に倒れこみ、路の傍らには岩盤から剥ぎ取られた根っ子が裏返しになって、絡み合った根が、透



明度を増す空に向かって突っ立っています。

まだ緑を残す木々に「もっと生きたかっただろうに」と想い、根っ子の裏側にまで射し込む秋陽に「もっと優しくできないのかい」と筋違いの叱責を浴びせたくなるのです。



深まり、ひろがる秋の装い

二上山では台風の爪痕がまだ生々しいのですが、主要ルートは片付けが進み、通行には何の心配もない状況です。だが枝道や新たに設けられた裏道などはまだ倒木、落下枝などで歩きにくい箇所が残っています。

そうした中でも、岩屋峠にはヤマハッカが群れて薄紫の花を満開にしましたし、故田中澄江氏が「二上山の花」として紹介したテイショウソウが各所で咲いています。麓に咲くツリガネニンジンやイヌ



↑ヤマハッカ

タデ(アカマンマ)の花も可愛いですね。

嬉しかったのは、アキチョウジの群落を見つけたことです。山歩きでは普通に見かける秋の花ですが、二上山では祐泉寺の南の谷にあった小さな群落が無くなり、淋しく思っていたので、出会った時には心躍る思いでした。

センブリとも久々に

2か所で10数株のセンブリに出会ったのも嬉しい出来事でした。二上山では久しく見かけなくなっていましたから。



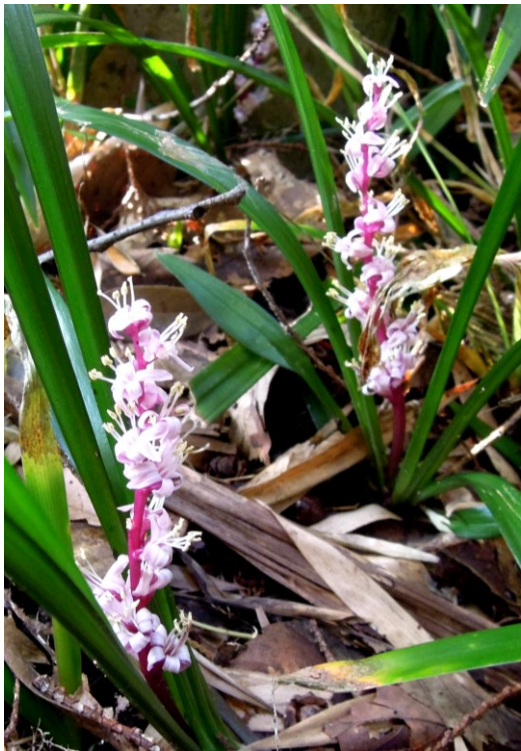
↑センブリ

↓リュウノウギク

キク科の花々も次々と

野菊の仲間も競うように花を開きます。ノコンギクの仲間はどれもよく似ており、区別が付きません。

少し大きく、純白の花びらをパッチリと開くリュウノウギク、鮮やかな黄色のシマカンギクなども、登山路路傍を飾ります。



↑キチジョウソウ

キチジョウソウも

艶やかな濃緑の葉の間からキチジョウソウ(吉祥草)が次々と花を咲かせています。

観音草とも呼ばれるこの花には「吉事があつたら咲く」との言い伝えがありますが、可愛らしい花を見つけるとそれだけで自然と頬が緩みます。



↑センブリ

↓リュウノウギク

おめでたい実も見頃

おめでたい物と言えば、百両と呼ばれるカラタチバナ(写真左)も、十両の別名を持つヤブコウジ(写真右)も、誇らしげに真っ赤な実を熟させています。

人間の体調をも狂わせた天候不順や災害を乗り越えて、山は急ぎ足で晩秋に向かっていきます。

